

漢方の臨床

Journal of Kampo Medicine

Published by The Association of East-Asian Medicine

4

第72巻・第4号

2025

〔主な内容〕

〔口絵〕 目でみる漢方史料館(481)(482)……………小曾戸 洋……………382
巻頭言……………渡辺 浩二……………391

座談会 生物学的製剤と漢方(上)

津田篤太郎〔司会〕 野上達也 富澤英明 小暮敏明 星野卓之

……………393

東亜医学協会の沿革について(1)

昭和戦前期の漢方復興運動 ―「講演・講習会の時代」へ―……………平崎 真右……………409
当帰芍薬散が有用であった

更年期女性の両手指関節痛の1例……………岸本圭永子 他……………421

飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より⑬⑨……………井上博喜 他……………429

東京医大漢方医学センターだより(47)……………矢数芳英 他……………435

温知会 症例検討録(013)……………野上達也 他……………445

医師・薬剤師リレー治験録(228)……………飯田敏雄 他……………455

東洋堂経験余話(382)……………松本 一男……………460

漢方牛歩録(424)……………中村 謙介……………463

漢方研究室(69) 2025年4月号出題 第69問……………畝田 一司……………466

山崎正寿先生ご逝去……………小曾戸 洋……………468

台中栄民総医院の見学報告……………中島 正光……………471

〒102-0072
東京都千代田区飯田橋
1-12-7 MSビル

東亜医学協会

<https://aeam.jp/>

Eメール: domei-toa@nifty.com

電話 03-3264-8410
FAX 03-3265-5995
振替 00140-7-119430

当帰芍薬散が有用であった

更年期女性の両手指関節痛の1例

○¹⁾岸本圭永子・²⁾千福貞博

緒言

日本産婦人科学会の定義によれば、更年期とは閉経の前後5年間とされている。この更年期女性に出現する関節痛には、変形性関節症、慢性関節リウマチなどの膠原病、さらに、エストロゲン分泌低下が原因となるもの、などが考えられる。今回、整形外科治療が無効の更年期における両手指関節痛に対し、当帰芍薬散が有用であった症例を経験したので文献的考察を加え報告する。

キーワード：更年期女性、関節痛、当帰芍薬散

症例

【症例】 58歳、女性

【主訴】 両手指関節痛

【既往歴】 51歳、55歳…パニック障害（心療内科にて通院治療）。55歳、58歳…眩暈症（耳鼻科にて通院治療）

【その他】 52歳にて閉経

【家族歴】 特記事項なし

【現病歴】 55歳頃から両手指関節痛が出現した。整形外科を受診したところ、ヘバーデン結節との診断で経過観察となった。しかし、この症状は増悪し、水の入ったコップを持つことができなくなった。このため、当院受診の1年6カ月前に同じ整形外科を再診し、精査を受けるも前回同様に異常所見は認めなかった。引き続き経過観察となったが、症状がさらに増悪したため、当院受診の5カ月前より消炎外用剤や桂枝加朮附湯の処方を受けたが不変であった。また、当院受診の1カ月前に婦人科を受診、更年期障害と診断され、ホルモン補充療法を勧められたが拒否し

た。以上の総合的な経過から、漢方治療を希望し当院受診となった。

【現 症】 身長166・7 cm、体重57・0 kg、BMI 20・9、血圧118/72 mmHg、脈拍64/分。体温35・3℃。両側の第2、3、4指のMP関節、DIP関節の圧痛を認めるも発赤・熱感はない。

【血液生化学的検査所見】 白血球数39000/μL、CRP 0・02 mg/dLであり、基準値内であった。このほか、抗核抗体は陰性、RF因子は1/3、抗CCP抗体は1/5であり、いずれの検査項目も陰性であった。

【簡略更年期指数 (Simplified Menopausal Index: SMI)】 34点。評価：運動に注意を払い、生活様式などにも無理をしないようにしよう、であった。

【漢方医学的所見】 問診では、ふらつき・めまい・乗り物酔いしやすい・のどの渇き、などの水滯と考えられる症状を訴えた。また、閉経後からの不調であること、固定性の疼痛であること、の2点より血虚・瘀血が関与する症状ととらえた。漢方医学的診察では、脈候は沈・弱。舌候は暗赤色で胖大、齒痕を認め、舌苔は微白苔であった。腹候は腹力軟で弱（腹力2/5）、臍上悸と右臍傍圧痛を認めた。

【経 過】 漢方医学的所見より、血虚・水滯と判断し当帰芍薬散医療用エキス製剤（ツムラ社製）を1日量5.0gで処

方した。服用約40日後には安静時疼痛が改善、労作時のみ疼痛が残存した。症状が軽減したことにより、日常生活における支障がなくなった。開始から6カ月後に廃薬としたが、症状の再発はなく経過良好である。

考 察

本疾患の西洋医学的な診断と治療

関節痛は関節を構成する組織の障害のほか、筋肉、筋膜、腱、靱帯など関節周囲の組織の障害によっても生じる。その原因として変形性関節症、関節リウマチ、種々の自己免疫性疾患、悪性腫瘍、血液疾患など、整形外科領域にとどまらず多岐にわたる。今回経験した更年期障害における関節痛は、性別と年齢に制限がかかるため確定診断が比較的容易と想像されるが、関節リウマチなど種々の自己免疫性疾患の好発年齢も30～50歳代であり、これら疾患との鑑別診断が重要と考えられる。

本疾患による関節痛の原因としては、エストロゲンの低下が主因と考えられている。すなわち、女性は40歳を過ぎるとエストロゲン値の低下が始まり、平均50歳で閉経を迎える。エストロゲン受容体は筋肉や腱などの関節支持組織にも分布し、それらの柔軟性の維持にも関与している。そのため、更年期に入りエストロゲン分泌の不安定化や低下が

生じるといふ関節の柔軟性が低下することの影響を認める。この影響を認めることは、関節の前のこわばりや関節痛が発症するおそれの機軸が想定される。

「簡略更年期指数 (S M I)」にも、その詳細項目の最後に「手足の節々 (関節) の痛みがある」が挙げられている。

しかし、更年期症状としての手指痛に、明確な診断基準や治療ガイドラインはない。このため、更年期後半では約半数が関節痛を訴えているとされているが、太田⁽¹⁾の報告にあるように、関節痛を専門とする整形外科医においても本疾患に対する認知度は低く、再三の受診にても「原因不明」で扱われ、専門的な医療介入が行われることは少ないと推察されている。

本症例においても、閉経3年後から出現した手指関節痛で、更年期に完全に該当する症状である。しかし、整形外科にて精査を行うも、画像診断・検査所見上は問題がなかったため、当初、変形性関節症である「ヘバーデン結節」の診断名となっている。そして、この病名を告げられてはいるが積極的な医療処置はなく、「経過観察」になっている。その後、症状が増悪したため再度検査を受けることになっているが、この段階でも血液検査にてCRP値陰性、RF因子・抗CCP抗体ともに陰性で、これらで関節リウマチの否定が追加されただけで、再び経過観察となっている。以後の増悪、すなわち、3度目の受診で初めて

のS M Iと病名がわかれ、処方として桂枝加朮附湯が用いられ本格的な医療介入となるのである。しかし、前記したように、疼痛の発症機序が通常の炎症性によるものとは異なるためか、いずれの薬剤も無効であった。

なお、本症例に「簡略更年期指数 (S M I)」が診断の参考になるかと考えて問診を追加したが、明らかな高値ではなく、あくまで本指数は補助的なツールにとどまると思われる。現在、西洋医学的に、本疾患を積極的に診断できる画像診断・検査項目はない。以上、更年期女性の関節痛においては、本疾患の存在を念頭にして複数科の検査結果を総合的に判断し、除外診断によって確定診断に至るものと考えらる。

更年期関節痛に対する一般的な漢方医学的な

診断 (弁証) と治療

前項で記述したように、この更年期障害の関節痛は「診断がつかない手指痛」として扱われるため、これを検索項目として漢方治療の論文を渉猟することとした。中村は葛根湯もしくは葛根湯加朮附湯エキスにより手指痛が軽減した4例の報告を、中西は明らかな診断がつかない手指痛に対し、加味逍遙散と苓姜朮甘湯のエキス製剤併用により症状改善した症例を報告している。⁽³⁾ この他に投与された漢方

薬では、大防風湯⁽⁴⁾、薏苡仁湯⁽⁵⁾、桂枝茯苓丸加薏苡仁⁽⁶⁾、越婢加朮湯⁽⁷⁾、麻杏薏甘湯⁽⁸⁾、温経湯の症例報告がある。症例数を集めて検討した臨床研究としては、宮西らが中年女性を中心とした手指痛の関節痛100症例の漢方治療を報告している。その結果、効果判定が可能であった62症例において、有効群が47%、軽度有効群が37%であったと報告している。この際の処方内容は、漢方薬エキス製剤単独では、加味逍遙散が30症例と最も多く、次いで桂枝茯苓丸加薏苡仁16症例、香蘇散と当帰芍薬散が各15症例であった。また、対象症例の弁証について、寒熱の別では寒証、気血水の異常としては瘀血や気滯、と判断された症例が多数みられたとしている。そして、これらの弁証結果から、駆瘀血剤、理気剤、散寒祛湿の効能を持った方剤が多く用いられたと考察している⁽¹⁰⁾。

本症例の漢方医学的診断と治療

本症例を漢方医学的に診た場合、すなわち、気血津液弁証で判断すると、①閉経後からの不調、めまい、固定性の手指痛であること、②舌色が暗赤色であること、③腹候にて右臍傍圧痛があること、と①③の自己覚所見が認められ、「血虚と血瘀」の存在を示唆していた。一方で、④めまい、ふらつき、乗り物酔いをしやすいこと、⑤舌候にて

胖大で齒痕を認めること、⑥腹候にて臍上悸を認めること、とあり、これら④⑥の所見は「水滯」の存在を示唆していた。これら①③⑥を包括する治療薬として当帰芍薬散を第一選択と判断し、本剤で奏効したと考えられる。しかし、当帰芍薬散の効能・効果に直接「関節痛」の記載はない。そこで、この関節痛に対する効能に関して、(i)古典の文献的、(ii)現代の文献的、(iii)現代の薬理学的、この3つの視点で検討して、以下に考察する。

(i)「当帰芍薬散」の鎮痛効果に対する古典の文献的解説

当帰芍薬散の原典は『金匱要略』であり、「婦人、懐妊、腹中病痛するは、当帰芍薬散之を主る」(婦人雜病脈証并治第二十)⁽¹¹⁾、「婦人、腹中の諸疾痛は、当帰芍薬散を主る」(婦人雜病病脈証并治第二十二)⁽¹²⁾とある。これらの条文から、広く妊娠中の諸病・産婦人科疾患での腹痛、で用いられている。しかし、本剤を臟腑弁証・気血津液弁証によって方解すると、補血調肝の薬物と運脾除湿の薬物を組み合わせと考えられる。すなわち、当帰芍薬散に配合される生薬を有名な漢方薬で解釈しなおすと、「四物湯(『補血剤代表』)去地黄」と「五苓散(『利水剤代表』)去桂枝・猪苓」の合方になっている。このことに対して、室賀は「本剤の四物湯成分に補血柔肝・活血の作用があつて調肝に働き、五苓散成分が利湿の作用で健脾に働く」と、つまり、「肝血が不

足し肝氣をヨシト目録できず、脾虚濕滯に乘じて肝氣が脾に横逆した肝脾不和を調整する一種の和解薬である」と解説している。⁽¹³⁾そこで、この解釈から産婦人科的な効能・効果を超えて、認知症、貧血、腎疾患、皮膚疾患を始め、今回の疼痛性疾患など、老若男女を問わず幅広く使われている。浅田宗伯⁽¹⁴⁾はこの現状を予測するかのよう「勿誤藥室方函口訣」の中で、「この方は吉益南涯得意にて諸病に活用す（中略）全体は婦人の腹中痼痛を治するが本なれども、和血に利水を兼ねたる方（であるため）、建中湯の証に水気を兼ねる者か、『逍遙散の証に痛を帯る者』か、（これらの）何れにも広く用うべし」とある。つまり、腹痛以外の疼痛にも使用することが可能であることを述べている。

（ii）「当帰芍薬散」についての現代の文献的解説

本症例で効果のあった「当帰芍薬散、更年期障害」を検索項目として論文を渉猟すると、自明のことであるが、更年期障害に対し当帰芍薬散を使用した報告例が多数認められた。その中で、橋本⁽¹⁵⁾らは冷えなど自律神経系機能障害症状を主訴とする対象患者27例に対し、当帰芍薬散と加味逍遙散を用い、その有効率は当帰芍薬散が78・76%、加味逍遙散が90・62%と報告している。さらに、「関節痛」との直接記載ではないが、当帰芍薬散は日常生活に支障を及ぼしうる、精神神経障害様症状、血管運動神経障害様症状、知

覚・運動器官障害症状に対し70%以上の有効率があったとしている。また、更年期障害に対する漢方療法の文献をまとめ、総説の形として報告した矢内原らは、使用頻度の高い処方、当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸の3処方であり、更年期障害に対する有効率はそれぞれ、72・5%、72・7%、72・5%とほぼ同等で高い有効率であったとしている。⁽¹⁶⁾一方、更年期障害に限らず、当帰芍薬散の関節痛への治療を示唆する報告では、秋葉が「麻痺とともに生じやすい浮腫と関節痛の処方例の一つ」として本剤を挙げている。投与に際して、「胃腸機能が平均的、或いは、やや虚弱であるときに適切」とある。使用目標には、手足が冷えやすくて、むくみを伴う患者の関節痛と挙げているが、さらに、「神経痛、関節痛単独にも適用される」とある。⁽¹⁷⁾

ちなみに、当帰芍薬散の使用目標については、中田⁽¹⁸⁾が、本剤を20～30歳代の女性97例に投与し、80・4%の有効率を得た印象から、以下の8点にわたる臨床像の特徴を記載している。(1)年齢では20歳代から30歳代の成熟期女性。(2)体格的には中肉から痩身の女性。(3)皮膚は血色なく、緊張度が低下している。(4)冷え症を伴う。(5)月経の不調を伴う(月経痛、月経不順、月経過多、月経過少、無月経など)。(6)腹状は臍傍の抵抗(特に左側)を認め、腹力も余り強くない。(7)流産時。(8)妊娠時、(証に関係なく安産安胎目的)。同じ

く、本剤の使用目標として、鈴木は、大塚恭男所長の外来から、I. 望診、II. 問診・III. 漢方医学的診察所見に分けて、以下の報告をしている。

I. 望診 (1) 顔色：青白い、艶がない。(2) 雰囲気、表情：おとなしい、女らしい、なれなれしくない、美しい人(派手ではない)、いろいろと悩みがあるような、疲れきったような表情、うつ様、表情が硬い、神経質。(3) 姿勢(視線) 堂々とはしていない(前かがみ)。(4) 歩き方：歩幅が狭い、足音が低い。(5) 服装：ほとんどが厚着である。

II. 問診 (1) 声、話し方：声が小さい、訴えは多いが、まくしたてるような話し方はしない。(2) 訴え：肩こり、めまい、頭重感、冷え、下肢のむくみなどを訴える場合が多い。

III. 漢方医学的診察 (1) 舌診：湿、淡紅、淡紫、齒痕のある場合が多い。(2) 腹診：皮膚は浮腫状で「皮下に水気を帯びたような状態」の場合が多い。腹力は普通くやや充実、胃内停水を示すこともある。小腹は、いわゆる「瘀血」を示す場合と、膨隆して無力の場合とに分けられる(臍傍拘攣の証はなし)。

なお、上記した中田、鈴木の指標目標を本症例に当てはめると、神経質で疲れきった様子であったこと、声が小さく、執拗ではないが訴えが多いこと、めまい症状があること、舌色は紫、腹診では「瘀血」所見があることが一致していた。

(iii) 現代薬理学的にみた当帰芍薬散の鎮痛効果について

杉山⁽²⁰⁾は、駆瘀血剤(血府逐瘀湯、桃核承氣湯、桂枝茯苓丸、加味逍遙散、当帰芍薬散)の鎮痛効果を慢性疼痛モデルであるSART (Specific alternation of rhythm in temperature) ストレスマウスおよび正常マウスを用いて、芍薬甘草湯を対照薬として検討している。その結果、加味逍遙散、当帰芍薬散、および、芍薬甘草湯にSARTストレスを用いた実験系でのみ鎮痛効果が得られ、正常マウスでは鎮痛効果は認められなかった。すなわち、正常マウスにおいても鎮痛効果を示すアミノピリンとは鎮痛作用機序が異なり、下行性疼痛抑制系の機能低下の改善による作用機序が想定されている。これは、ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液含有製剤(ノイロトロピン[®])と類似した機序によるものと考察している。

結 語

更年期女性では明確な診断がつかないばかりか、治療に難渋する手指関節痛は多く診られる。今回、その手指関節痛に当帰芍薬散が有用であった。浅田宗伯は当帰芍薬散の使用目的に「逍遙散の証に疼痛を帯ぶる者へ用いるべし」と述べている。本剤のような駆瘀血剤(当帰芍薬散、加味逍遙散)には、現代薬理学的に下行性疼痛抑制系の機能改

善を示唆する報告がある。したがって、目常に頻用される消炎鎮痛剤が無効な「ヘバーデン結節」など更年期女性の整形外科的疼痛疾患に対して、当帰芍薬散はさらに広く用いられるべき方剤であると考ええる。

参考文献

- (1) 太田博明…A外来における女性診療4、更年期外来、産婦人科治療、94 (suppl)、P4、2007
- (2) 中村謙介…漢方牛歩録 (138) 手指痛の四例、漢方の臨床、42 (11)、P44~45、1995
- (3) 中西美保、岸田友紀、古瀬洋一ほか…上肢の慢性疼痛に対する蒼朮甘湯の使用経験、痛みと漢方、26、P64~70、2016
- (4) 小曾戸洋…大防風湯①古典的解説、日本病院薬剤師会雑誌、33、P17~19、1997
- (5) 松本一男…東洋堂経験余話 (217) 関節リウマチに薏苡仁湯 右肘の腫脹に越婢加朮湯、漢方の臨床、57 (9)、P1489~1491、2010
- (6) 福田悟…VitaminD欠乏に関連した両手指関節痛に東洋医学的治療法が有効であった1症例、第50回日本ペインクリニック学会大会抄録、2016
- (7) 中村謙介…漢方牛歩録 (235) 右母指外転筋腱炎、漢方の臨床、53 (11)、P1911~1914、2006
- (8) 櫛田学…ヘバーデン結節による手指の腫脹に対する漢方薬の使用経験、第31回日本疼痛漢方研究会抄録2018
- (9) 木下哲郎…更年期障害としての関節痛に対する漢方療法、産婦人科漢方研究のあゆみ、37、P153~156、2021
- (10) 宮西圭太、平田道彦、織部和宏…中年女性を中心とした明確な診断がつかない手指痛の東洋医学的特徴と漢方治療、日本東洋医学雑誌、70 (3)、P240~246、2019
- (11) 北里研究所附属東洋医学総合研究所医史文献研究室編…元鄧珍本 金匱要略133、燎原、東京、1988
- (12) 北里研究所附属東洋医学総合研究所医史文献研究室編…元鄧珍本 金匱要略146、燎原、東京、1988
- (13) 室賀一宏、安井廣迪…当帰芍薬散 (金匱要略) phill 漢方、7、P9~10、2004
- (14) 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ…勿誤葉室方函口訣、(最終閲覧日2024年10月2日) <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb0000254?page=63>
- (15) 橋本深、小國親久…冷えなどを主訴とする症例に対するTJ23・TJ24の治療効果、診療と新薬、18、P473~481、1978
- (16) 矢内原巧、後藤田裕宏、植村和幸ほか…更年期の漢方療法、産婦人科の世界、39、P891~895、1987
- (17) 秋葉哲生…定額医療時代における高齢者漢方診療の意義…第17回高齢者特有疾患の漢方ベストチョイス36麻痺に伴い生じやすいむくみと関節痛、Geriatric Medicine、48 (8)、P924~925、2008
- (18) 中田敬吾、山岡啓子、小西英玄ほか…当帰芍薬散の臨床、日本東洋医学雑誌、78 (3)、P101~107、1978
- (19) 鈴木朋子…大塚恭男所長と当帰芍薬散、漢方の臨床、42 (1)、P83~89、1995
- (20) 杉山清…慢性疼痛モデルにおける漢方薬の評価、Prog Med、17、P881~886、1997
- (1) 医師…〒662-0075 兵庫県西宮市南越木岩町7-17 けいクリニック
- (2) 医師…センプククリニック

A case of Arthralgia in postmenopausal woman successfully treated with Japanese herbal medicine

¹⁾Keeko Kishimoto · ²⁾Sadahiro Senpuku

¹⁾Kei Clinic, Hyogo, Japan · ²⁾Senpuku Clinic

Abstract

A suspected causes of Arthralgia in postmenopausal women are osteoarthritis, rheumatoid arthritis, estrogen hyposecretion or hormone balance malfunction.

The case was 58- year -old woman who suffered from her fingers joint pain. She had the orthopedic treatment for her fingers joint pain with western drugs, but it didn't work well. For this case, we gave her Japanese herbal medicine "Toki-syakuyaku-san", and her pain was getting better. 6months later she stopped taking this medicine, but her fingers joint pain didn't relapse.

Keywords: postmenopausal women, fingers joint pain, Toki-syakuyaku-san